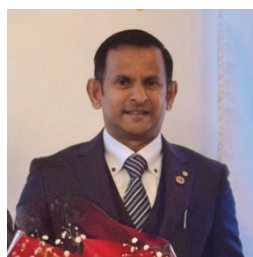




1 奨学生からロータリー会員へ — 二人の歩み —

奨学期間終了後、多方面で活躍する米山学友たちの中で、300 人を超える米山学友がロータリー会員となっています。その中で、第 2620 地区富士宮 RC に入会した青山チャリットさん（2006-08 / 静岡日本平 RC）と、第 2530 地区いわき平 RC に入会したソー タイさん（2012-13 / いわき平 RC）のメッセージをご紹介します。

【青山チャリットさん】



奨学生時代、スリランカの子どもたちへの文房具贈呈プロジェクトを世話クラブの皆さまと実現できた経験が私の原点です。この経験は、その後米山学

友会でスリランカ支援活動が続けることにもつながり、奨学生時代に蒔いていただいた「支援の種」がその後の活動へと広がっていることが嬉しいです。ロータリーに入会してからは、「地域や社会のために何ができるか」を常に考えるようになりました。視野も広がり、物事をより長期的・多角的に捉えるようになりました。日々の仕事や行動でも、「誠実さ」と「社会への貢献」を意識するようになったことが大きな変化です。

多くの方に支えられた経験を胸に、今度は自分が誰かを支える側として地域社会や社会課題の解決に取り組み、信頼されるロータリー会員へと成長していくことが今後の目標です。

【ソー タイさん】



ロータリー会員の皆さまの卓話は、奨学生当時の私にとって貴重な学びの機会でした。それぞれの分野で活躍されながら社会や平和のために尽力されている姿

に深い尊敬の念を抱き、いつか自分もロータリーの一員になりたいと思うようになりました。その思いから、ロータリーへの入会を申し出ました。実際に入会できたことを大変光栄に思うとともに、人生の大きな夢の一つが叶ったと感じています。

これからはロータリー会員としての自覚と責任を持ち、地域社会への貢献に取り組んでいきたいと考えています。また、諸先輩方から多くを学びながら人とのご縁を大切にし、これまでいただいたご支援への感謝を胸に、社会や地域、そして平和のために少しでも役に立てる存在になれるよう努力していきたいです。

2 寄付金速報 — やや回復傾向に —

前年同期比

-3.3%

普 +1.5% 特 -5.8%

2 月末までの寄付金は前年同期と比べて 3.3% 減（普通寄付金: 1.5% 増、特別寄付金: 5.8% 減）、約 3,460 万円の減少となりま

した。皆さまからの変わらぬ厚いご支援に深く感謝いたします。

来月以降は、新規米山奨学生に関する行事も増加してまいりますので、引き続き当事業へのご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

第 2610 地区米山学友会 20 周年記念式典開催のご案内

◇2026 年 5 月 16 日（土）13:30 開始予定

◇会場：金沢ニューグランドホテル 金扇

※17 日に能登復興支援活動見学・視察開催予定

※申込期限は **4 月 30 日（木）** まで※

詳細はこちら



3 地域の子ども食堂を支援 第2620地区米山学友会

2月21日、第2620地区米山学友会が山梨市の「こども食堂 風の子イートステイ」を訪問し、子ども食堂支援の寄付を行いました。米山学友3人を含む計5人が参加しました。

同学友会ではこれまで、スリランカやベトナムの子どもたちへの海外教育支援に取り組んできました。今年は日本の子どもたちにも貢献したいとの思いから、子ども食堂への支援を検討し、柳場文彦地区学友委員長の紹介で同施設を訪問。活動や運営への理解を深めたうえで支援を決定しました。その後、地区大会で募金活動を行い、集まった支援金で



炊事器具とお米を寄付しました。当日は施設スタッフによる活動紹介の後、同学友会の孫麗^{ソンレイ}会長（2012-14／大阪なにわRC）から熊谷朋子代表へ目録が贈呈されました。

熊谷代表は、「子ども食堂の活動は地域の支えによって成り立っており、このようなご支援は大変励みになります」と感謝を述べました。孫会長は「実際に施設を訪問し、子ども食堂が子どもたちの大切な居場所となっていることを実感しました。今後も地域とのつながりを大切にしながら、社会に貢献できる活動を続けていきたい」と語りました。

4 タイ米山学友会総会開催 新会長選出

2月21日、タイ米山学友会総会がバンコク市内で開催され、米山学友とロータリー会員ら43人が参加しました。

総会は会長のペチニン ナレスさん（1994-96／越谷RC）の挨拶で始まり、活動報告、会計

報告が行われました。その後、次年度会長選挙が行われ、同学友会の設立に携わったインタラチット ヌンヌットさん（2006-07／横浜鶴見北RC）が会長となることが決定しました。

5 「温かな支えを力に、夢へ」奨学期間終了者インタビュー

米山奨学生が奨学期間を終了し、新たな一歩を踏み出す3月。今回は、張佳文^{チョウカブン}さん（2025-26／東京立川こぶしRC）に、米山奨学生として過ごした1年間を振り返っていただきました。

【張佳文さん】

例会に初めて参加したとき、皆さんが温かく接してくださり、拙い日本語にも丁寧に耳を傾けてくださいました。その経験から、いつか自分もこの場にふさわしい大人になりたいと思いました。印象に残っているのは、バーベキュー例会です。音楽を聴きながら食事を楽しみ、子どもたちと日本の遊びをしました。日本の方々

の日常の中に自然に入れたように感じた時間でした。ロータリー会員の皆さんとの交流を通して、人との関わり方や相手を尊重する姿勢の大切さを学びました。カウンセラーの横川みどりさんは、いつも親身に支えてくださり、日本での生活を支える心強い存在でした。

将来は、アジアから世界へ発信できるウエディングドレスや礼服のブランドをつくるのが夢です。卒業後は企業で経験を積み、夢を形にしていきたいと思っています。



モンゴル米山学友会 総会開催

■開催日時：5月5日（火）15:30～17:30（現地時間）

※オンライン 16:30～18:30（日本時間）

■会場：CONTINENTAL HOTEL

※申込期限は3月25日（水）まで※

詳細はこちら

